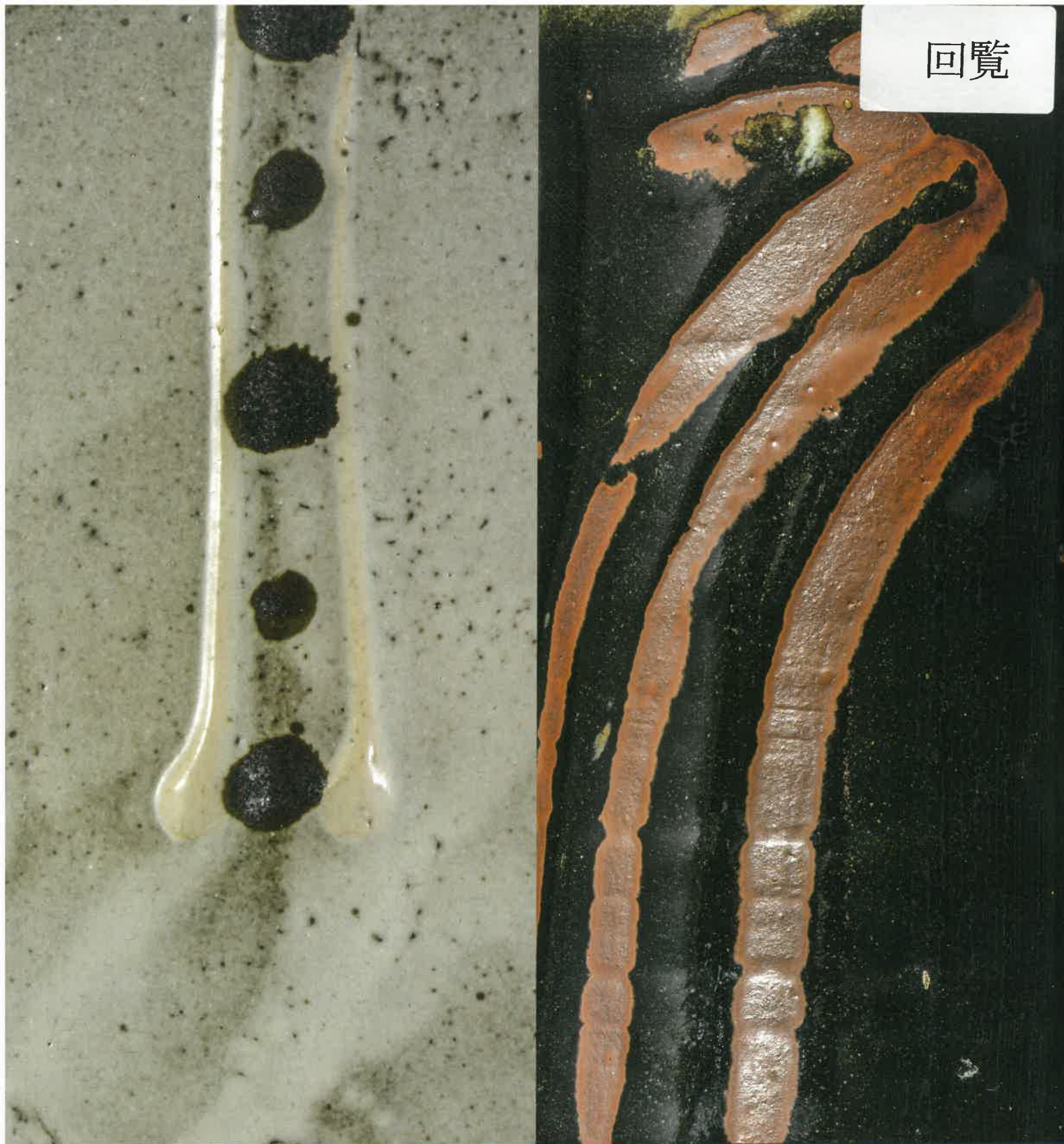




静と動 濱田晋作・濱田庄司

Quietness and Dynamic: Shinsaku Hamada & Shoji Hamada

2024.10.6[日]→2025.1.13[月・祝] 開館時間 10月・11月 9:30→17:00 12月・1月 9:30→16:30 ※入館は開館30分前まで

■休館日：月曜日(祝日の場合は翌日) ※ただし陶器市期間中の11月5日(火)は開館、11月6日(水)は休館、年末年始12月26日(木)～2025年1月2日(木) ■入館料：大人600円(550円)・小中学生300円(250円)
※()内は20名以上の団体、65歳以上は300円(要証明) ■主催：益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館 ■協賛：益子町地域間交流協会 ■後援：下野新聞社、とちぎテレビ、
栃木放送、エフエム栃木、ももか新聞plus、NHK宇都宮放送局 ※今後の状況により展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は当館ウェブサイト・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

益子陶芸美術館
Mashiko Museum of Ceramic Art

栃木県芳賀郡益子町益子3021
TEL: 0285-72-7555
www.mashiko-museum.jp



濱田晋作《地肌鉄絵白蓋湯呑》1980年頃
濱田庄司《掛合軸掛織花瓶》1950～1957年頃、益子陶芸美術館

濱田晋作 Shinsaku Hamada



1



2



3



4



5



6



7



8

Shoji Hamada 濱田庄司



1



2



3



4



5

濱田晋作

- 1 《柿釉抜絵大鉢》1987年頃
- 2 《地釉面取鉢》1970年
- 3 《地釉鉄絵食籠》1976年
- 4 《地釉鉄刷毛目扁壺》
- 5 《塩釉刷毛目鉄絵花瓶》1980年
- 6 《黒釉面取花瓶》
- 7 《藍鉄塩釉耳付花瓶》2006年
- 8 左から《赤絵盒子》、《呉須赤絵香合》、《赤絵蓋物》2010～2015年頃

濱田庄司

- 1 《青釉格子描角皿》1970年頃
- 2 《糠釉鉄絵扁壺》1940年頃
- 3 《流釉徳利》1950年
- 4 《白釉黒流描角壺》1960年代
- 5 《琉球窯赤絵茶碗》1960年代後半

※濱田庄司作品はすべて益子陶芸美術館蔵

益子を代表する陶芸家の一人、濱田晋作は昨年7月に惜しまれながら逝去しました。晋作は1929年、陶芸家濱田庄司の次男として生まれます。中学生のころから陶芸家を志した晋作は、早稲田大学にて美術工芸を学んだ後、父の元で修行に励みました。父を支え、多忙を極める中でも作陶し、自らの作風を作り上げていきました。父・庄司は1894年生まれで今年生誕130年を迎えます。柳 宗悦らとともに民藝運動を始め、1930年に益子に居を構えて以降、同地を拠点に作陶しています。本展では晋作と庄司、二人の作品を展覧します。庄司の作品が躍動的である一方で晋作は静謐で清雅な作品を制作しており、同じ土と釉薬を用いているにもかかわらず、その作風は対照的です。相対する二人の作品をお楽しみください。

同時開催

「林 康夫 一浪江に捧ぐー」

9月3日(火)～11月5日(火)
※9月24日(火)～10月5日(土)は休館

「陰翳礼讃」

11月12日(火)～2025年1月13日(月・祝)
※12月26日(木)～2025年1月2日(木)は休館

■ 会場

当館2階展示室 要企画展チケット

次回展のご案内

「高内秀剛」

2025
1月26日(日)～4月6日(日)

※今後の状況により展覧会予定に変更が生じる場合がございます。
最新情報は当館ウェブサイト・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

Access

益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL.0285-72-7555

www.mashiko-museum.jp

アクセス：【バス】東武宇都宮駅(西口1番バス乗り場)、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東バス益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩約2分。【鉄道】JR小山駅から水戸線「下館」駅下車、下館駅から真岡鐵道「益子」駅下車徒歩約25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道「桜川西」ICから約20分。東北自動車道栃木郡質JCT経由、北関東自動車道「真岡」ICから約25分。 ※運行状況は各交通機関にご確認ください。

